

被災地における無形民俗文化財のアーカイブ事業 (①無07-12)

目 的

被災地の無形民俗文化財に関わる情報・記録等を収集・アーカイブするサイトの構築を通して、災害時の無形民俗文化財に関わる情報拠点としての新たな体制の在り方を検討する。また、被災地での現地調査を行い、流失した民俗文化財の記録や、情報の収集作業に当たる。

成 果

被災した無形民俗文化財に関わる被災情報、支援情報、復興情報等について、関係行政や民間団体等と協働で収集。独立行政法人防災科学技術研究所（2012年10月に研究協定を締結）の全面的協力により2013（平成25）年3月に無形文化遺産情報ネットワークサイトを立ち上げた。（<http://mukei311.tobunken.go.jp/>）

サイトの公開に合わせ、2013（平成25）年3月6日（水）、第1回無形文化遺産情報ネットワーク協議会を東京文化財研究所において開催。東北被災地域における無形文化遺産の復興支援に関わる様々な分野の関係者約50名と共に今後の支援の在り方について協議した。

また、被災地域における民俗文化財の記録の在り方や方法を検証するモデルケースとするため、俵木悟氏（成城大学・東京文化財研究所客員研究員）、森本孝氏（漁村研究家）と共に岩手県大船渡市末崎町基石地区において継続的調査を行った。成果は26年度末に報告書として刊行する予定。

備 考

本研究は、所長裁量経費によるものである。また、事業期間は2012（平成24）年8月～2013（平成25）年3月までである。



甚大な津波被害を受けたが復興した
西館の七福神（大船渡市末崎町）



津波に流された街を練り歩くうごく
七夕の山車（陸前高田市）